

**2025年12月期
第2四半期決算説明資料**



2025年8月14日
株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
証券コード：4576

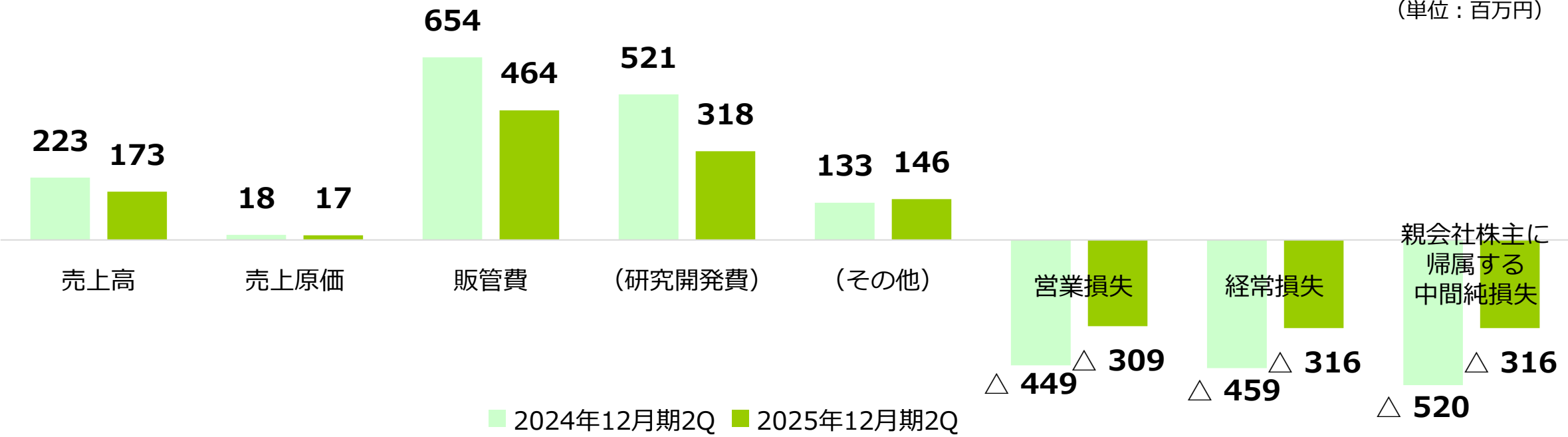
1. 2025年12月期 第2四半期業績
 2. 2025年12月期 事業進捗
 3. 成長戦略
- (参考) 事業概要

1. 2025年12月期 第2四半期業績

2025年1月1日～2025年6月30日

連結損益計算書（対前年同期比）

（単位：百万円）



【売上高】

- グラナテックの国内ロイヤリティ受領期間満了（2024/9）により、前年同期比22.5%減。
- 主に、DW-1002、グラアルファのロイヤリティ収入を計上。

【研究開発費】

- H-1337のP2b終了及びDWR-2206のP2投与完了により開発費用が減少し、前年同期比39.0%減。

連結損益計算書（対通期予想比）

（単位：百万円）

	2024年12月期		2025年12月期				主な要因
	上期実績	通期実績	上期実績	対前年同期増減額	通期予想 (2/10公表)	対予想進捗率	
売上高	223	471	173	△50	400	43.3%	・ 概ね計画どおり
販売費及び一般管理費	654	1,634	464	△190			
研究開発費	521	1,367	318	△203	760	41.9%	・ 概ね計画どおり ・ 下期にDW-5LBTの支払マイルストーンを見込む
その他販売費及び一般管理費	133	266	146	13			
営業損失	△449	△1,209	△309	140	△670	－	
経常損失	△459	△1,228	△316	143	△680	－	
親会社株主に帰属する 当期（中間）純損失	△520	△1,290	△316	203	△680	－	

連結貸借対照表

2025年6月末（対前期末比増減）

（単位：百万円）

現預金 1,047（△78）	流動負債 105（△26）
	固定負債 522（△280）
	純資産 884（+150）
売掛金 80（△44）	
その他流動資産 212（△11）	
固定資産 172（△21）	

【現預金】

- 主に研究開発費等の使用による減少
- 第12回新株予約権の行使による増加417百万円

【売掛金】

- グラナテックの国内ロイヤリティ終了による減少

【固定資産】

- DW-1002（欧州）の契約関連無形資産の償却20百万円

【流動負債】

- 未払金の減少13百万円、減資による未払法人税等の減少11百万円

【固定負債】

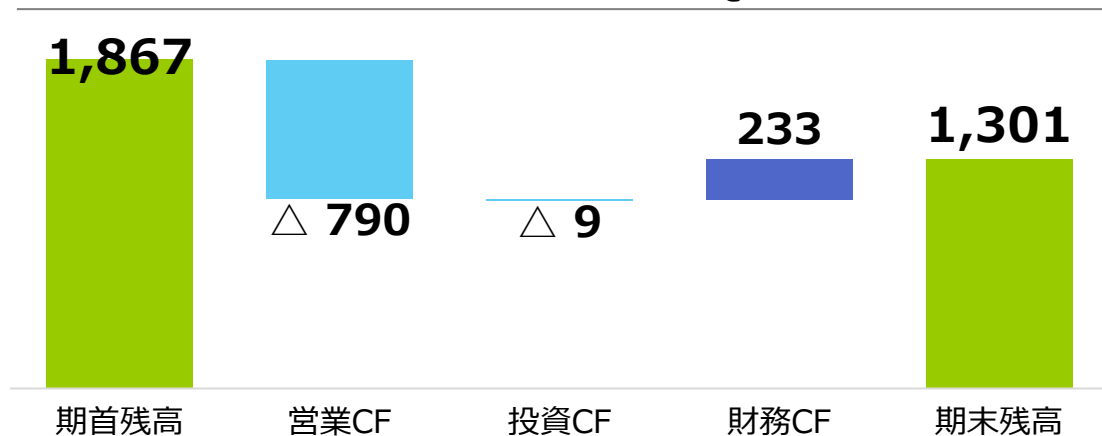
- 社債の繰上償還302百万円
- DWR-2206開発費用の融資による長期借入金の増加22百万円

【純資産】

- 中間純損失316百万円の計上
- 新株予約権行使等により資本金、資本準備金は各209百万円の計上
- 無償減資による欠損填補を行い、資本金264百万円（2025/6末）

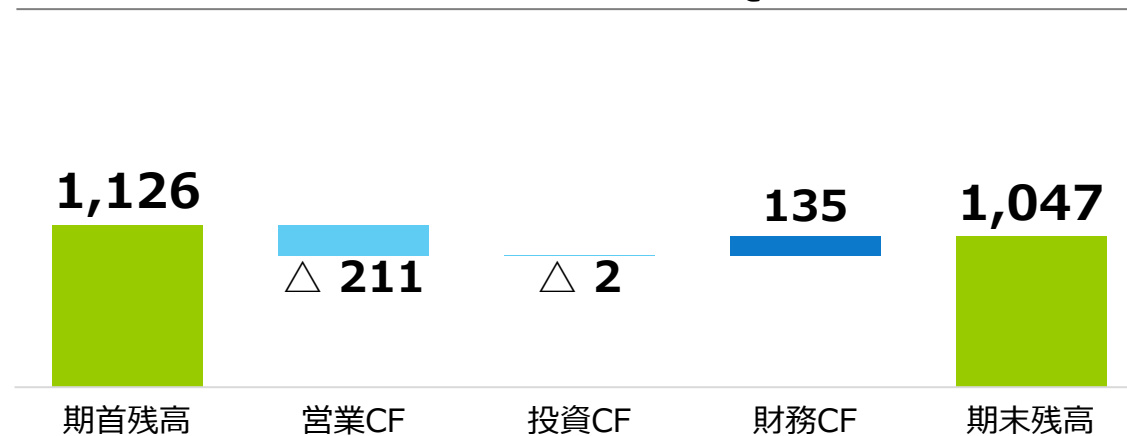
連結キャッシュ・フロー計算書

2024年12月期2Q



2025年12月期2Q

(単位：百万円)



【営業CF】

- 税金等調整前当期純損失△316百万円、売上債権の減少額44百万円
- 前年同期比の主な減少要因：研究開発費（H-1337,DWR-2206の臨床開発費用）の減少

【投資CF】

- 有形固定資産の取得による支出△2百万円

【財務CF】

- 新株予約権の行使による収入415百万円、長期借入れによる収入32百万円
- 社債の償還による支出△302百万円

手元流動性は、現預金のみ（有価証券なし）の1,047百万円

2. 2025年12月期 事業進捗

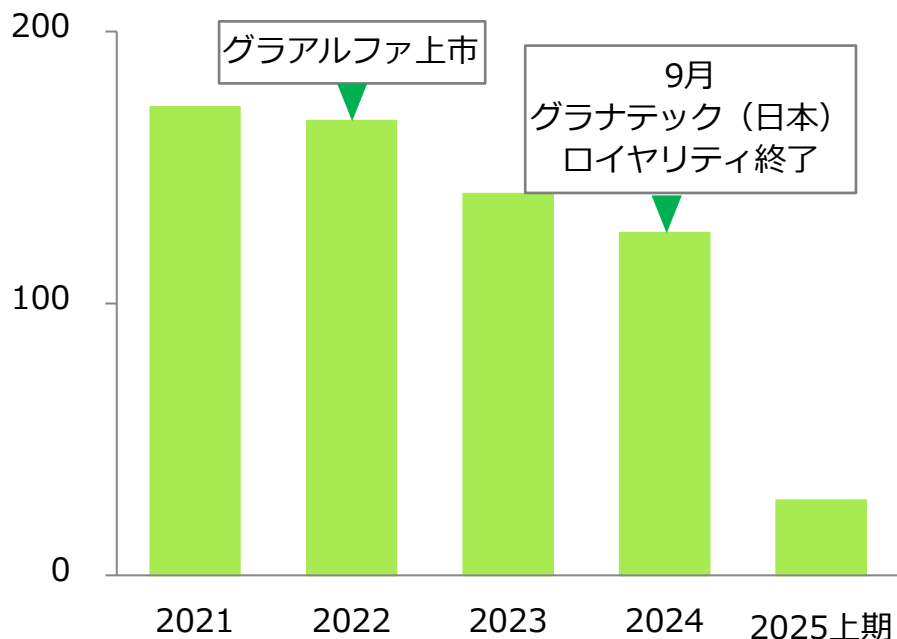
2-1. 上市品



緑内障治療剤 リバスジル塩酸塩水和物

(単位：百万円)

当社ロイヤリティ推移
(単剤・配合剤合算)



グラアルファ®配合点眼液

リバスジル塩酸塩水和物とブリモニジン酒石酸塩との配合剤

- ✓ ロイヤリティは順調に増加
- ✓ 海外展開も実施中（上市：2025年7月タイ、承認：2025年6月シンガポール、7月マレーシア、その他アジア地域も申請準備中）
- ✓ 【国内】ピーク売上予想81億円
(興和の売上高：販売開始10年後、患者数23万人)



グラナテック®点眼液0.4%

- ✓ 日本の単剤ロイヤリティは2024年9月終了
- ✓ 海外は僅少あり

- ✓ グラアルファの国内ロイヤリティは、順調に増加
2025年7月タイ上市
- ✓ グラナテックの国内ロイヤリティは、2024年9月終了
⇒全体のロイヤリティは減少

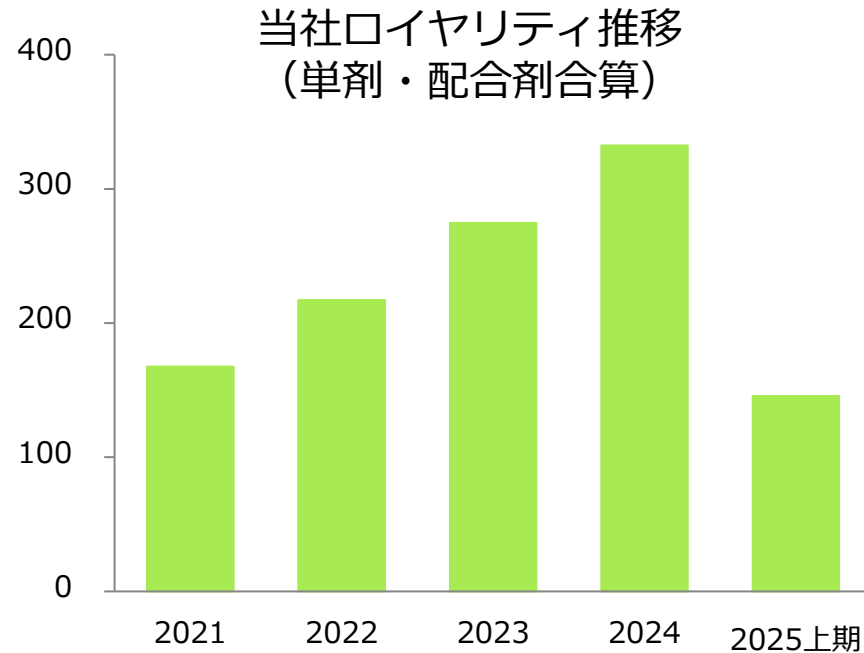
日本の市場

- ・ 2023年度：約858億円※
- ・ 配合剤の利用は増加傾向

※厚生労働省「第10回NDBオープンデータ」を基に弊社算出

眼科手術補助剤 DW-1002 (ブリリアントブルーG)

(単位：百万円)



- ✓ 販売好調、数量増加も円高の影響により、前年同期比△1.3%減
- ✓ 2025年12月に主要国の特許満了、米国特許は延長済み(2031年3月まで)、2026年以降は特許満了の影響を受けてロイヤリティ減少を見込む
- ✓ 国内は独占的ノウハウライセンス条項付製品供給契約により影響無し



ILM-Blue®、TissueBlue™

ブリリアントブルーGという染色性の高い色素を主成分とした眼科手術補助剤

特徴

- ・ 内境界膜の可視化が可能（薄さ約0.003mm）
- ・ 糖尿病網膜症や黄斑円孔等の硝子体手術時に使用



MembraneBlue-Dual®

ブリリアントブルーGとトリパンプルーの配合剤

特徴

- ・ 内境界膜、網膜上膜及び増殖硝子体網膜症における増殖膜を染色
- ・ 増殖性硝子体網膜症等の硝子体手術時に使用

推定手術件数

欧州
10万件/年※

米国
20万件/年※

※当社調べ

2-2. 開発パイプライン

H-1129の開発決定（7/15公表）

当社化合物ライブラリーのシード化合物を基に最適化されたRhoキナーゼ阻害剤

【第一世代】 リパスジル

- 2014年 緑内障治療剤として上市
- 2022年 配合剤グラアルファ上市
- K-321 フックス角膜内皮変性症治療剤として開発中（P3試験投与完了）

【第二世代】 H-1129

- 2012年 緑内障治療剤として開発開始
- 2019年 P3試験で開発中止

【第三世代】 H-1337

- 2015年 緑内障治療剤として開発開始
- 2024年 P2b試験終了
→P3試験準備中

アセットの有効活用の観点から、他疾患への適用（リポジショニング）を検討

病態モデル（動物）において、顕著な有効性が認められた

➡免疫異常を基盤とする角結膜疾患治療薬の開発を決定
（対象疾患は、競合戦略上非開示）

免疫異常を基盤とする角結膜疾患について

- 角結膜疾患とは、角膜・結膜に炎症、障害を起こす病態の総称
- 免疫異常の原因は、自己／同種免疫反応や過剰な免疫炎症反応による慢性障害

<目に対する影響>

- 目の乾燥、充血や目の痛み、視界がぼやける等
- 重症化すると、重篤な視機能障害につながる

<医療ニーズ>

- 希少疾患・難病であり、治療選択肢が限られる
- 標準治療は、免疫抑制 or 対症療法が中心

➡免疫異常を基盤とする角結膜疾患は、
QOL低下が著しく、重篤な疾患で医療ニーズは高い

H-1129の開発戦略

✓ オープン指定申請を検討

- 国からの研究開発費の助成や優先的な承認審査などの優遇措置が期待できる

✓ 効率的な開発を目指す

- 治験が小規模
 - 過去の開発品と同様の製剤（点眼剤）を検討
 - P1試験は実施済み、P2試験から開発検討（当局と要相談）

➡2025年度下期から治験準備開始、2026年のP2試験実施を目指す
（開発計画は確定次第、公表予定）

2025年12月期上期 開発パイプラインの現況

開発品		対象疾患	地域	非臨床	P1	P2	P3	申請	承認	上市	導出先
K-321	リパスジル 塩酸塩水和物	フックス角膜内皮変性症	米国・欧州等	投与完了							興和
DW-1002	ブリリアントブルーG（BBG）	内境界膜染色	中国	上市準備中							DORC
			日本	申請に向けて当局と交渉・検討中							わかもと製薬
		水晶体前囊染色	日本								
	BBGとトリパンブルーの配合剤	内境界膜及び網膜上膜染色	米国								DORC
DW-1001		眼科用治療剤（非開示）	日本								ロート製薬
H-1337		緑内障・高眼圧症	米国	P3準備中							自社開発
DW-5LBT		帯状疱疹後の神経疼痛	米国	再申請済み 審査終了目標日9/24							メドレックスと 共同開発
DWR-2206		水疱性角膜症	日本	評価・観察中							アクチュアライズと共同開発

■■■■ ・・・眼科疾患のパイプライン

フックス角膜内皮変性症 K-321

→2025年3月・6月 グローバルP3（2試験）の
患者投与完了
経過観察の終了は、2026年3月に変更
申請は2026年末～2027年の見込み（当社予想）

✓ 上市後、データ保護期間終了までロイヤリティを受領※
※緑内障治療剤と実施料率は異なる

導出済



リパスジル塩酸塩水和物の適応拡大



フックス角膜内皮変性症：
角膜内皮障害を起こす進行性の疾患で、角膜浮腫と混濁に
よって視力低下をきたし、水疱性角膜症に至る。

※1 United Nations 「World Population Prospects 2022」より40歳以上の人口を当社計算し、罹患率4%（※2）を掛けた数値。
※2 Moshirfar M et al. Fuchs Endothelial Dystrophy. Treasure Island (FL):StatPearls Publishing;2021.

<P3試験>

識別子※	NCT05528172 試験完了	NCT05795699	NCT05826353
概要	白内障手術後の患者	デスメ膜剥離手術予定のフックス角膜内皮変性症患者に術後投与	デスメ膜剥離と白内障の同時手術予定のフックス角膜内皮変性症患者に術後投与
症例数	331名	100名	100名
期間	2022年8月～2023年6月	2023年3月～2026年3月	2023年4月～2025年10月
開発地域	米国	米国・欧州等	米国・欧州等

※ClinicalTrials.gov Identifier、<https://www.clinicaltrials.gov/>より

眼科手術補助剤 DW-1002

→2025年2月 中国承認取得、販売準備中 日本、米国いずれも申請・承認に向けて 引き続き活動中

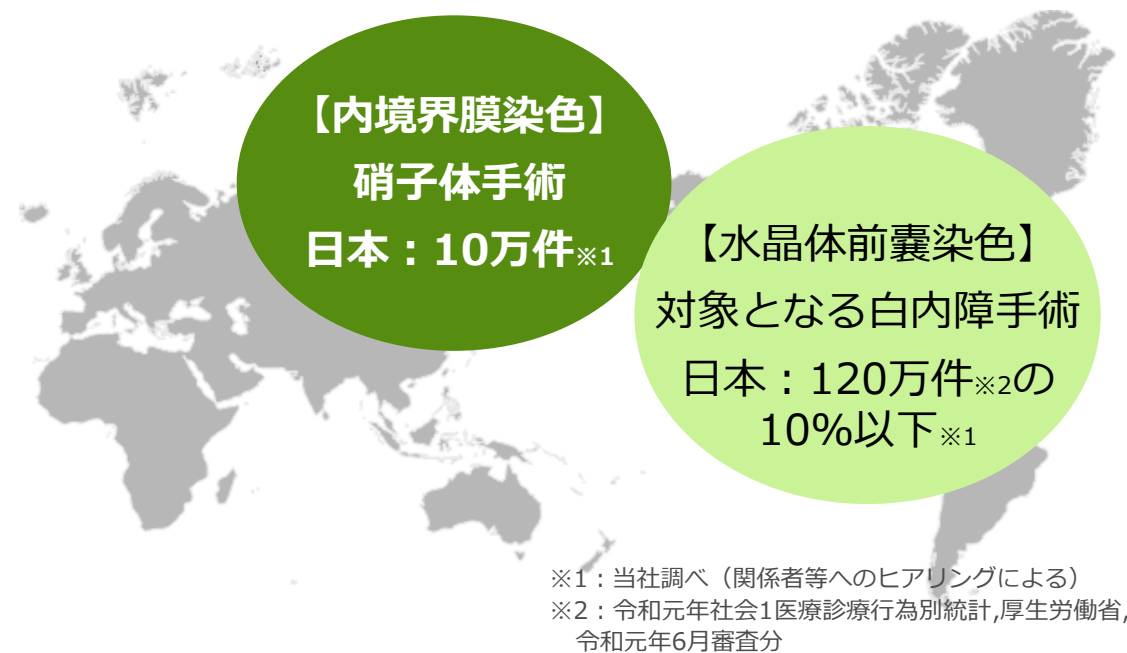
- ✓ 中国：2025年の販売開始を計画、医療機器扱い
契約は特許満了までの見込み
- ✓ 日本：米国承認データの利用について規格・品質に
関する課題
- ✓ 米国：FDAより小規模試験実施の指示有

導出済

* **D.O.R.C.** (日本を除く全世界)
 **わかもと製薬株式会社** (日本)

特徴

- 成分は染色性の高い色素BBG250
- 眼内にある内境界膜等を一時的に染色し、
硝子体、白内障の手術を補助



(ご参考) 1本あたりの単価

欧州／CEマーク	55ユーロ
米国／医薬品	140ドル

*D.O.R.C.'s logo is a registered trademark of D.O.R.C. Dutch Ophthalmic Research Center (International) B.V., an independent company

緑内障治療剤 H-1337 第二選択薬のFirst Choice

➔P3試験準備中（治験薬の製造、
毒性試験等の推進）
ライセンシング活動も推進中

✓ 2025年5月 世界最大規模の眼科学会ARVO
で口頭発表

✓ P3試験で設定する群構成、用法・用量の検討

自社開発品



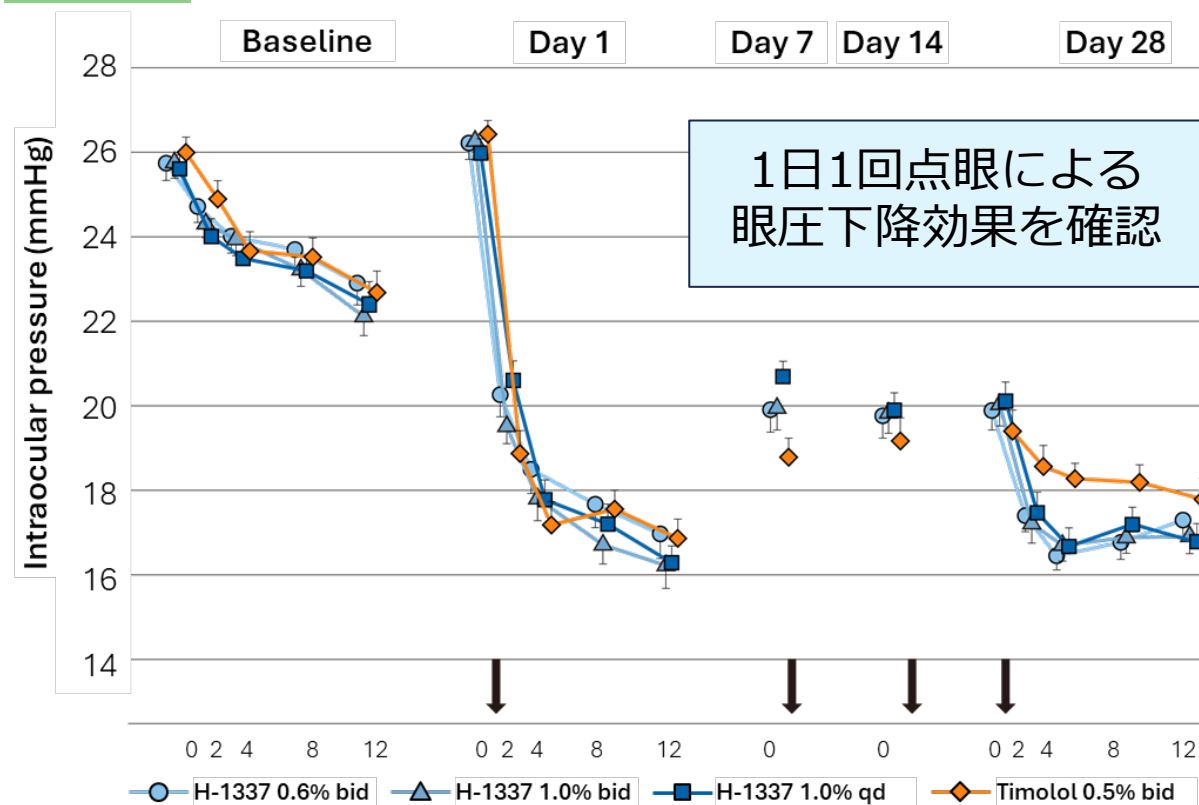
特徴

- 線維柱帯－シュレム管を介して房水流出を促進
- マルチキナーゼ阻害剤

米国P2b結果（期間 2023年8月～2024年8月、201症例）

有効性 H-1337の3群ともすべて、有意に眼圧を最大
30%低下（ $p<0.001$ ）

安全性 結膜充血が発生、ほとんどが軽度



H-1337の市場性と競合

- ✓ 米国での上市を優先
 - 市場：約30億ドル（2020年度）※1
 - 対象の市場推計：上記の最大40%
 - 単剤売上300億円を目指す

【第二選択薬としての評価】 ROCK阻害剤の比較

	点眼回数/ 眼圧下降値	副作用
H-1337 (ROCK阻害)	1日1回/ 6~7mmHg	・充血：43.4%（Phase2b: ~4週） ・長期投与の副作用は不明
リパスジル※2 (ROCK阻害)	1日2回/ ~4mmHg	・充血：69% ・長期投与においてアレルギー性結膜炎・眼瞼炎の発現頻度が高まる傾向
ネタルスジル※3 (ROCK阻害)	1日1回/ ~5mmHg	・充血：53% ・渦状角膜症：約20%
【参考：第一選択薬】 ラタノプロスト※4 (PG)	1日1回/ 6~8mmHg	・虹彩・眼窩周囲組織（眼瞼）の色素沈着、まつ毛の変化 ・充血：8%

競合薬ネタルスジルについて

- 米国初のROCK阻害剤
- Aerie社が創製～販売、
2018年単剤、2019年配合剤上市
(売上高) ※Aerie社の開示資料より
2018年：2,420万ドル（9ヶ月）
2020年：8,313万ドル

⇒2020~2021年、参天製薬が欧州、
アジア・日本の権利獲得
契約一時金総額：1億3,800万ドル

⇒2022年、AlconがAerie社を買収
買収価格：7億7,000万ドル

※1：下記資料を基に当社分類・集計
Copyright © 2025 IQVIA. Source : Calculated based on IQVIA MIDAS Dec 2020
MAT Reprinted with permission

※2：添付文書 グラナテック点眼液0.4%

※3：Label of RHOPRESSA®

※4：Label of XALATAN®

➔国内P2試験、被験者の経過観察中
重要な有害事象及び被験製品との因果
関係が否定できない重篤な有害事象の
報告は無し
2025年12月末までに評価・観察終了
予定

- ✓ 日本は通常試験を実施（早期承認制度は使わず）
- ✓ 中国は2025年から臨床試験開始を計画
 - 中国ArcticVisionに導出済み。当社はアクチュアライズが受け取る収益の一部を受領

共同開発品



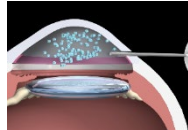
水疱性角膜症を対象に、培養ヒト角膜内皮細胞を含有した懸濁液を注入し、角膜内皮の再生を行う



凍結角膜内皮細胞製剤



温めて融解



前房内に注入

P2試験デザイン

2024/12、被験者への移植完了

概要：

- 多施設共同非遮蔽非対照試験：水疱性角膜症患者を対象に、DWR-2206の安全性と有効性を検証

症例数	6
評価・観察期間	治験製品移植後48週
主要評価項目	有害事象及び因果関係の否定できない有害事象の発現例数及び発現率（％）
副次評価項目	・ 安全性評価項目に対する観察・評価 ・ 重要な有害事象の発現例数及び発現率（％） ・ 治験製品移植後24週の視力改善の有無 ・ 最高矯正視力の経時的変化 ・ 角膜厚の経時的変化 ・ 角膜内皮細胞密度の経時的変化

DWR-2206の市場性と競合

日本の状況

✓ 水疱性角膜症：7,000～10,000人※1

✓ 移植待機者数：10,000～20,000人※2

※1：厚労省資料、※2：当社調べ

(ご参考) 主要な競合品

ビズノバ

移植細胞	培養ヒト角膜内皮細胞
社名	Aurion Biotech, Inc.
ステージ	JP: 上市【 薬価：約950万円 】 US: P I / P II

市場規模予測（ピーク：6年目） ※厚労省資料より

- ・当医療機器使用患者数：160人
- ・予測販売金額：約15億円

競合のAurion Biotech, Inc.について

- 主たるパイプラインはビズノバ、米国の臨床試験に注力中

⇒2022年、シリーズCで1億2,000万ドル調達

⇒2025年、Alconが過半数株式を取得

神経疼痛治療薬 DW-5LBT

→2025年3月、再申請

審査終了目標日（PDUFA date）：

2025年9月24日

販売パートナー候補と提携交渉中、

2026年上期上市を目指す

共同開発品



帯状疱疹後の神経疼痛を対象にしたリドカインテープ剤

特徴

- ・ 先行指標製品Lidoderm®との検証的な比較臨床（生物学的同等性）試験に成功
- ・ 「皮膚刺激性が少なく」「粘着力に優れ」「運動時においても粘着力を保持できる」

リドカイン貼付剤市場の推計



※メドレックス公表資料より

2025年上期の共同研究実績（開示分）



1/28 眼疾患を対象にした治療薬の共同研究
当社化合物等を用い、網膜変性疾患や眼炎症疾患への有効性を評価

自社品

眼科



3/27 当社化合物を用いた統合失調症治療薬の共同研究
新たな作用機序を有する革新的治療薬の可能性を追求

自社品

眼科以外



4/28 新たな眼疾患治療薬創出に向けた次世代製剤開発
眼疾患治療薬に適した薬効の増強や眼内移行性を高める製剤の研究

他社品

眼科



4/30 当社化合物を用いた生活習慣病の共同研究
ゼブラフィッシュスクリーニングによる評価

自社品

眼科以外



5/15 白内障治療薬創出に向けた共同研究
白内障の予防・治療の点眼薬の創出

他社品

眼科



7/8 眼疾患を対象にした治療薬の共同研究
Chordia社のキナーゼ阻害剤を用い、眼疾患への有効性を評価

他社品

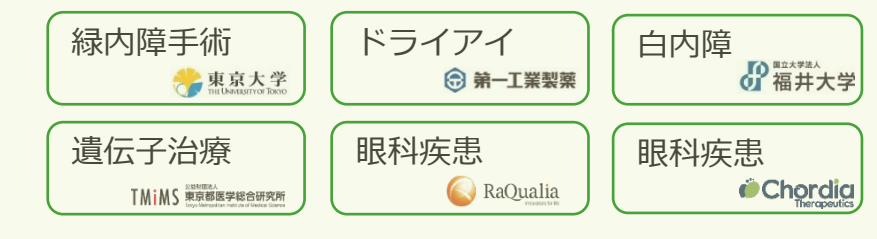
眼科

新規開発品の創出に向けた研究活動への成長投資

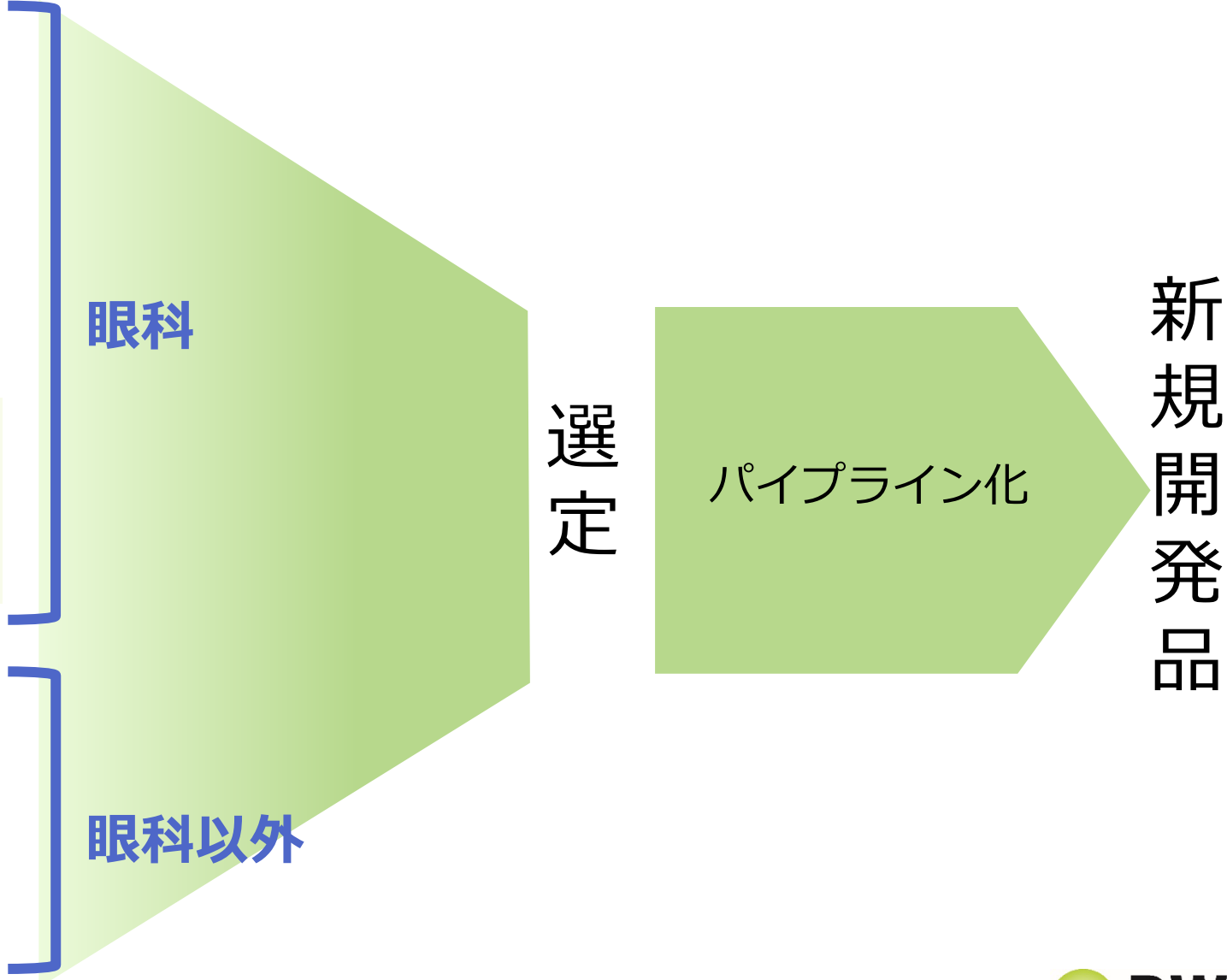
①眼科キナーゼ阻害剤



②眼科疾患の知見による領域拡大



③キナーゼ阻害剤の展開による領域拡大



3. 成長戦略

これまでの実績と次のステップ

時期	創業～2014年	2015年～2019年	2020年～2025年現在	次のステップ
タイプ	研究（基盤技術）型	研究・開発型		
取組み	<u>創薬基盤技術の確立</u> ・ キナーゼ阻害剤技術 ・ 眼科疾患開発ノウハウ	+ 自社開発体制構築 + 共同創薬体制構築 + キナーゼ阻害剤の適応拡大	+ アカデミアネットワーク体制構築 + 共同開発体制構築 + 事業開発体制構築	+ 新たなモダリティ獲得 + 他疾患（眼科領域以外）の開発 + 承認取得までの体制構築 + 販売体制検討
成果	・ 導出：3件 ・ 上市品：1件	・ 導出：2件 ・ 共同創薬（技術供与）による収益：1件 ・ 導入上市品の獲得：1件 ・ 自社開発：1件 ・ 適応拡大の開発：1件	・ 研究プロジェクト：13件以上 ・ 開発パイプライン増加：2件 ・ 共同開発：2件 ・ 自社開発：1件 ・ 上市品：1件	期待される成果 ・ 研究プロジェクトの臨床開発 ・ 自社開発品の増加 ・ 自社（共同）開発品の上市 ・ 収益の多様化/最大化

次のステップの方針

強
み
・
実
績

キナーゼ阻害剤
基盤技術



眼科疾患開発
開発ノウハウ・効率的な開発体制



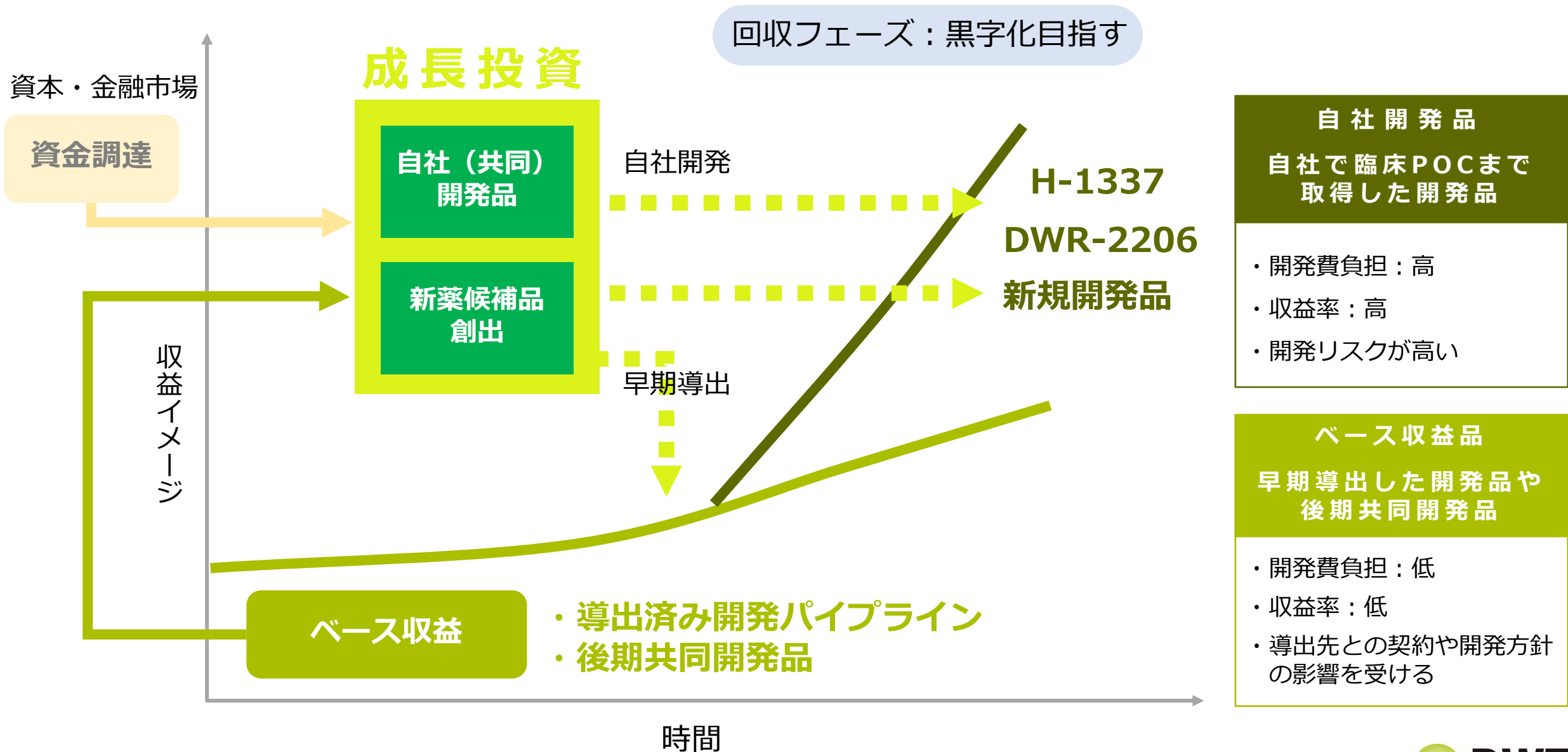
複数の開発パイプラインを保有し、相乗的なポートフォリオを構築
(複数の疾患領域／様々なフェーズの開発パイプライン／自社開発・導出)

リスク分散・収益の多様化／最大化



収益機会を多く創出することで、企業価値の最大化を目指す

成長投資と収益イメージ



現在の開発パイプライン



➡ 上記注カパイプラインと次の新規開発品への成長投資が重要

当社の注カパイプライン

H-1337（自社開発）

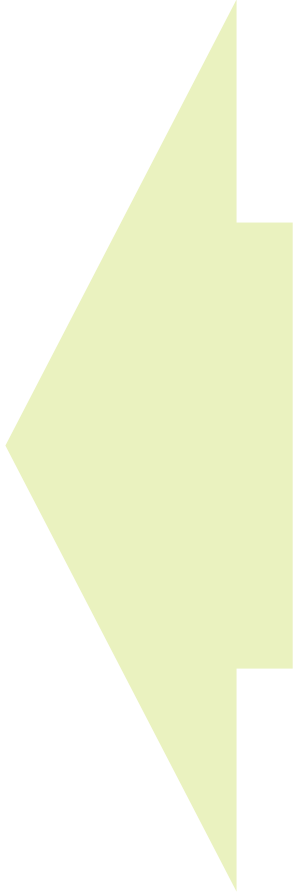
- ✓ P2b試験で良好な結果
- ✓ P3試験準備中、毒性試験等を推進
- ✓ ライセンシング活動も並行実施中

DWR-2206（共同開発）

- ✓ P2実施中（患者投与完了、経過観察中）
- ✓ 2027年の申請を目指す

“新規開発品”H-1129（自社開発）

- ✓ 強みである自社創製品、眼科疾患
- ✓ 効率的な開発により早期承認を目指す



成長投資

2025年12月期通期連結業績予想 (2025年2月10日公表)

H-1129の開発に取り組むが、現時点での業績修正は無し

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期		主な要因
	通期実績	通期予想	対前期増減額	
売上高	471	400	△71	- 主に、DW-1002、グラアルファのロイヤリティ収入を計上 - DW-1002（日本）のマイルストーン収入等を見込む - グラナテックの国内ロイヤリティ終了により減収見込み
営業損失	△1,209	△670	539	- 研究開発費は、H-1337、DWR-2206の投与完了により減少 - その他販管費は、概ね前年並み
経常損失	△1,228	△680	548	
親会社株主に帰属する当期純損失	△1,290	△680	610	
研究開発費	1,367	760	△607	- 主な内訳 - H-1337のP3試験に向けた開発費用（毒性試験、治験薬製造etc） - 新薬創出に向けた研究費用（自社創薬・共同研究）は前期比増加

開発パイプラインの進捗計画

パイプラインの名称等		地域	2024	2025	2026	2027
H-1337	緑内障治療剤	米国	P2b		P3準備及びライセンスアウト活動	
K-321	フックス角膜内皮変性症	米国		P3	申請 ※2026年以降	
DW-5LBT	帯状疱疹後の神経疼痛	米国		✓再申請 → 承認	上市	
DW-1001	眼科用治療剤	日本		開発計画未定	※ライセンスアウト先のロート製薬の方針により、今後の開発計画を検討中	
DW-1002	内境界膜染色	中国	申請	✓承認	上市	
	内境界膜染色 水晶体前嚢染色	日本		申請	承認	上市
	内境界膜及び網膜上膜染色	米国		申請準備	申請	承認 → 上市
DWR-2206	水疱性角膜症	日本	非臨床	P2	P3	申請
		中国		臨床試験 ※2025年から臨床試験の開始を計画		

※上記計画は、ライセンスアウト先が想定する開発計画もしくは当社予想に基づく開発計画であり、実際の開発進捗と相違する可能性があります。

7/15 第三者割当てによる第13回新株予約権の発行

調達予定額	1,339百万円（差引手取概算額）
潜在株式数	10,000,000株（2025年6月30日現在の総議決権に対し21.86%）
行使期間	2025年8月1日（金）～2027年8月2日（月）
当初行使価額	134円
行使価額修正	行使請求の効力発生日の直前取引日の普通株式の普通取引の終値90%に相当する金額に修正、下限行使価額80円（発行決議日前営業日終値×60%）
割当先	株式会社 S B I 証券
その他	行使停止、取得条項、譲渡制限等

【資金使途】

具体的な資金使途	金額（百万円）	支出予定時期
① 新規開発品の開発費用	650	2025年10月～2027年12月
② 創薬研究活動（共同研究を含む。）及び新規パイプライン獲得に係る費用等	300	2027年1月～2027年12月
③ 「H-1337」の開発資金	100	2026年1月～2026年12月
④ 運転資金	289	2027年1月～2027年12月

(参考) 事業概要

会社概要・沿革

会社名	株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 (略称：DWTI (デューティー))
上場市場	東証グロース市場（証券コード：4576）
事業分野	医薬品の創薬研究開発
資本金	264百万円
役職員数	30名（連結）
事業拠点	本社：愛知県名古屋市 開発研究所：三重県津市（三重大学に産学官連携講座「臨床創薬研究学講座」設置）
連結子会社	日本革新創薬株式会社  Japan Innovative Therapeutics

2025年6月末日現在

基礎研究特化	1999年	会社設立
	2006年	研究所の設置（三重大）
	2009年	株式上場（現：東証グロース市場）
事業領域拡大 -自社開発実施 -他社とのコラボ	2014年	自社品の国内上市 
	2015年	他社品（開発品）の導入開始
	2018年	自社で臨床開発開始
	2022年	再生医療品の共同開発開始

事業ハイライト

4

- 上市品は4製品保有
- 開発後期品（P3以降）は5品目保有

1,500

- 当社の化合物ライブラリーにあるキナーゼ阻害剤の数は、約1,500個
- キナーゼ阻害剤のパイオニア

7

- 導出実績は7品目
- 他には、自社開発（共同開発含む）が3件

<当社の事業>

創 薬

自社創薬

- ✓ 独自の化合物ライブラリーから効率的に成功確率の高いキナーゼ阻害剤を創製
- ✓ 他社とのコラボレーションを推進し、新たな新薬の種を創製

育 薬

臨床開発

- ✓ 自社で臨床開発の実施（ヒトにおける有効性・安全性の評価までを行う）

事業開発

- ✓ 自社創製品、導入品のライセンスアウト活動
- ✓ 導入は、開発後期品、リポジショニング品を検討

新薬を生み出す基盤技術

- ◆ 創薬エンジンとは、新薬を継続創出できる当社独自の基盤技術
- ◆ キナーゼとは、タンパクをリン酸化する酵素。過剰なリン酸化は様々な病気を引き起こす要因となる。
(キナーゼがタンパクの活性（活動）をコントロール)

<創薬エンジン>

化合物ライブラリー

- ✓ 良質な新薬の種（ネタ帳）
- ✓ 3つの上市された薬剤を含む

ドラッグデザイン

- ✓ ライブラリーの化合物から新規品を作る力
(経験、データ)

ドラッグウエスタン法

- ✓ 新薬の作用メカニズム探索ツール
- ✓ メカニズムの推定により価値向上（安全性、効果の要因を推定）

<キナーゼ阻害剤の可能性>

多様な適応疾患

- ✓ キナーゼは様々な疾患において重要な働きを担う
- ✓ 抗がん剤が主流。免疫系、神経変性系、炎症系などの開発検討も進む

大きな市場規模

- ✓ キナーゼ阻害剤の年間販売額合計は2兆円以上

当社はキナーゼ阻害剤のパイオニア

- ✓ 世界初のキナーゼ阻害剤は1995年に発売されたファスジル
(当社化合物ライブラリーにも含まれている)



「日本発の画期的な新薬を世界へ」

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
D. WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE



- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではなく、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性又は完全性について当社として保証するものではありません。
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の結果は事業環境の変化等の様々な要因により、将来見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社はかかる情報の正確性、適切性等について検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本資料の使用又は内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所